

琉球大学学術リポジトリ

[会員の広場]オリオンビール（株）

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平良, 昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017247

オリオンビール㈱

名護工場 平 良 昭

昨年わがビール業界は、一昨年の「スーパードライ」の発売から一躍ドライビールブームとなり、日本のビール約20%がドライビールで占められた。各社がドライビールを発売するなか、当社もドライビールを発売、ドライビール戦争へ参戦することとなった。

今年は、“脱ドライ”を目指すメーカーと今年もドライ中心に、とのメーカーと、ビール商戦は今年も熾烈な戦いを余儀なくされそうである。

ビールの多品種化、中味の多様化が進行してきたのはここ数年のことでこれは、まぎれもなく、日本が豊かになり、消費者のニーズが、多様化してきた、ということだろう。その消費者の多用化したニーズに答えるため、当社でも研究開発を進めている。

なにはともあれ消費者にとって、いろんなビールが飲めるということは、幸せなことではあるまいか？

さて、わが南方資源利用技術研究会のほうも、ここ数年、当山会長以下役員のみなさまの御尽力により、民間企業からの研究発表が増えて、まさに中味の多様化が進行してきたように思えます。特に昨年は、サトウキビ、ゲットウ、リュウキュウマツといった沖縄の植物資源に関する研究発表が多く、いかにも南資研の研究発表という感が強く、興味深く拝聴させていただきました。

近年の農産物輸入自由化や産地間競争の激化等、沖縄を取りまく状況はたいへん厳しいものがありますが、産官学の協力体制が充実しつつある南資研においては、近い将来、南方資源を利用した有用な技術や製品が、開発されることを期待しております。